

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

福岡県立大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和4年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（教育、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」、1項目（研究）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

福岡県立大学では、「学生ファースト」の理念に基づく内部質保証体制のもと、専門的職業人としての能力の育成はもとより、社会の変化に対応できる汎用的な資質・能力を身に付けるための全学横断型教育プログラムの充実に取り組み成果を上げている。令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響が継続したが、引き続きeラーニングやオンラインによる国際交流を進めるなど、教育研究の維持向上に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターの運営や看護師の特定行為研修の実施など地域貢献活動にも取り組んでいる。特に、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談支援や学生サポート活動、不登校児童生徒の社会的自立支援に向けた取組において、顕著な成果をあげている点はきわめて優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和4年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、構築した内部質保証体制を機能させながら、教育研究の更なる充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

Ⅱ 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的には年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

(1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成

- ・保健・医療・福祉の各分野の専門的知識を包括的に学ぶことができる「多職種連携プログラム」を開始したほか、「データサイエンス（リテラシー）学修証明書」の交付要件を整えた。
- ・必要に応じて遠隔授業を実施したほか、教養演習教科書の改訂や習熟度別英語クラス編成の準備を行うなど、教養教育の充実に取り組んでいる。
- ・人間社会学部において、幼稚園教諭一種、保育士資格に関する新たな科目を設置するほか、高等学校（情報）の教育課程を開始するなど、カリキュラムを充実させた。
- ・看護学部において、看護実践力を強化するため、学内に演習用施設を整備し、学修環境の整備に取り組んだほか、令和4年度から開始した学修証明書発行プログラム「ケアリング・ナーシングプログラム」の新規選択科目である「ケアリング・ナーシング演習」を開講した。
- ・保健師、社会福祉士、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。

(2) 高度専門職業人の人材育成

- ・大学院生を対象とした満足度調査や座談会を実施し、学生の意見を積極的に取り入れるとともに、人間社会学研究科において、新設科目を実施するなど、大学院教育を充実させた。
- ・助産師国家試験合格率が例年に比べて低いことから、課題の分析と対策の検討を行う必要がある。

(3) 教育活動の活性化

- ・教員を対象としたeラーニングに関するセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、アセスメント・プランに基づき、学生アンケート等の各種分析結果をまとめ、各学科・コース毎に学位レビューを作成し、教育活動の活性化に取り組んだ。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・オンラインと対面によるオープンキャンパスや個別相談に加え、学部やサークルの紹介動画を活用して入試広報活動を行ったほか、西田川高校生徒の受講の受け入れや出前講義により、意欲ある学生の確保に取り組んでいる。
- ・人間社会学部の学校推薦型選抜において、令和5年度入試から、新たに「社会的養護を必要とする者」を対象とした特別枠を設けた。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・eラーニングシステムをMoodleに更新して積極的に活用し、学生利用率も上昇した。
- ・成績不振の学生に対して教職員が連携して個別支援を行うとともに、障がいのある学生に対して修学上の支援計画を決定し対応するなど、学生の学修・生活支援体制を充実させた。

(6) キャリア支援

- ・キャリア形成支援関連科目やプレ・インターンシップ等を充実させるとともに、インターンシップが活発に行われる時期の前後に大学独自のガイダンスを行うなどキャリア支援に取り組み、就職率が高い水準を維持している。

2 研究

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

研究については、進捗が遅れている項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに進捗していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・研究水準を向上させるため、研究奨励交付金における若手奨励研究の新規募集枠の拡大を行った。
- ・福岡県国民健康保険団体連合会とデータ分析の共同研究事業に関する業務協定を締結した。
- ・研究倫理・不正行為防止研修の受講率が低下しており、体制の整備に取り組む必要がある。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況であると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・看護師、社会福祉士等の資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修を実施している。また、看護師の特定行為研修を実施し、7名の修了生を輩出した。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターの相談件数が4,100件を超えているほか、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高を更新した。さらに、不登校児童生徒社会的自立支援事業では、モデル校での不登校情報の分析や支援方法の提案を行うなど、不登校・ひきこもりへの積極的な支援により、地域に対する包括的支援の充実に取り組んでいる。
- ・交流協定締結校との教員交流や学生の短期研修プログラムをオンライン実施するなど、国際交流を充実させた。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・各種証明書の発行を行う部署を、就職・キャリア支援及び奨学金受付等を担う部署がある、学生支援センターに移設し、学生窓口を一本化した。
- ・職員の研修体系の見直しを実施するとともに、学外研修を積極的に推奨することにより、職員の資質向上を行う体制を整備した。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・科学研究助成事業に関する研修会を開催するだけでなく、当該研修会を録画し、教員がいつでも確認できるようにするなど、教育等に関する外部資金の獲得に取り組んだ。
- ・試験会場として有償で貸し出しを行い、大学施設を有効に活用した。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・IR推進室及び内部質保証・サイクル推進会議により構成されるIRサイクル総合会議が中心となり、学生の意見を把握し、教育の改善に取り組んでいる。
- ・高校訪問、入試説明会、出前講座の機会を通じて大学情報を広く発信しているとともに、学生や地域住民に向け、大学ホームページを活用して学内情報を公開した。